



主要な農作物の生育情報

令和元年度 第5号

(令和元年8月8日)

福島県農林水産部農業振興課

【作物】

1 水稲

出穂期は本部（郡山市）、浜地域研究所（相馬市）で平年よりやや遅く、会津地域研究所（会津坂下町）で平年並～やや早くなっています（表1）。7月上中旬の低温による不稔の発生や日照不足による病害虫の多発は見られていません。

表1 水稲の生育ステージ（令和元年8月6日現在）

調査場所	品 種	移植期 月.日	幼穂形成始期 月.日	出穂期 月.日	成熟期 [月.日]
本 部	ひとめぼれ	5.15	7.17 (+5)	8. 5 (+3)	[9.20]
	天のつぶ	5.15	7.17 (+5)	未 (8. 4)	[9.23]
	コシヒカリ	5.15	7.26 (+7)	未 (8.11)	[10. 2]
会津地域 研 究 所	ひとめぼれ	5.20	7. 8 (0)	7.29 (-2)	[9.11]
	天のつぶ	5.20	7.11 (0)	7.31 (-2)	[9.14]
	コシヒカリ	5.20	7.16 (+1)	8. 5 (0)	[9.18]
浜 地 域 研 究 所	ひとめぼれ	5.10	7. 7 (+1)	8. 1 (+2)	[9.14]
	天のつぶ	5.10	7. 7 (+1)	8. 3 (+2)	[9.22]
	コシヒカリ	5.10	7.16 (+2)	未 (8. 7)	[9.28]

※1 調査場所は農業総合センター本部（郡山市）、浜地域研究所（相馬市）、会津地域研究所（会津坂下町）。

※2 () 内の数字は、前5カ年平均値との比較または平年値を示す。

※3 成熟期の[]内は、前5カ年平均値を示す。

2 大豆

農業総合センターの調査では、開花期は本部（郡山市）、浜地域研究所（相馬市）で平年よりやや遅く、会津地域研究所（会津坂下町）で平年並となっています（表2）。現地では転換畑を中心に梅雨期の断続的な降雨の影響から、播種の遅れや湿害が発生し、生育量は全般に少ない状況です。

表2 大豆の生育ステージ（令和元年8月6日現在）

調査場所	品 種	播種期 月.日	出芽期 月.日	5葉期 月.日	開花期 月.日	成熟期 [月.日]
本 部	タチナガハ	5.31 (-1)	6. 7 (-5)	7. 2 (-6)	7.29 (+3)	[10.20]
	あやこがね	5.31 (-1)	6. 7 (-5)	7. 4 (-2)	7.28 (+2)	[10.15]
	タチナガハ	6.18 (-1)	6.25 (-1)	7.20 (+2)	8. 4 (+1)	[10.24]
会津地域 研 究 所	あやこがね	5.30 (-1)	6. 8 (-2)	7. 3 (-2)	7.25 (0)	[10.15]
		6.20 (0)	6.25 (-2)	7.16 (-3)	8. 3 (-1)	[10.21]
浜 地 域 研 究 所	タチナガハ	6.13 (+2)	6.22 (+3)	7.17 (+4)	8. 6 (+5)	[10.23]
		6.26 (+2)	7. 2 (+2)	7.28 (+5)	未 (8. 8)	[10.31]

※ 調査場所、() 及び[]内の数字の内容は表1に同じ。

【野菜】

1 きゅうり

5月下旬定植の露地栽培では、7月中旬までの日照不足と低温の影響により側枝の発生が鈍く、果実肥大も遅いことで草勢は低下しており、出荷量は平年よりも減少していました。7月下旬以降の天候回復により、果実肥大は進んでおり、出荷量も回復傾向となっています。

病害虫は、べと病、炭疽病、アブラムシ類、アザミウマ類が発生しています。

2 トマト

4月定植の作型では、7月中旬までの日照不足の影響により、果実の着色が進まず、草勢は低下しており、出荷量も平年よりも減少していました。7月下旬以降の天候回復により、果実の着色は進んでおり、出荷量も回復傾向となっています。

病害虫は、灰色かび病、アザミウマ類が発生しています。

3 ピーマン

5月定植の露地栽培は、平年並の6月下旬から出荷が始まりました。日照不足の影響により生育や果実肥大も遅れ、落花も発生しました。

病害虫は、灰色かび病、アブラムシ類が発生しています。

4 さやいんげん

5月中下旬定植の作型は、平年並の6月下旬より出荷が始まりました。日照不足の影響により草勢の低下や落花もみられています。

病害虫は、灰色かび病、アブラムシ類が発生しています。

【果 樹】（8月1日現在：農業総合センター果樹研究所）

1 も も

「あかつき」の収穫始めは7月25日で平年より8日早くなりました。収穫開始時の果実の大きさは276g、糖度は12.6（参考値）でした。

「ゆうぞら」の果実肥大（暦日比較）は、縦径が61.5mmで平年比110%、側径が63.5mmで平年比116%と平年より大きい状況です。また、生育日数による比較でも、平年より大きい状況です。

2 な し

果実肥大（暦日比較）は、「幸水」は縦径が62.4mmで平年比118%、横径が77.0mmで平年比119%と平年より大きく、「豊水」は縦径が61.8mmで平年比117%、横径が70.3mmで平年比120%と平年より大きい状況です。また、生育日数による比較でも、「幸水」、「豊水」ともに平年より大きい状況です。

果樹研究所における平均気温と降水量をもとにしたDVR予測プログラムによると、「幸水」の収穫盛期は平年より5日早い8月26日と予想されます。

3 りんご

果実肥大（暦日比較）は、「つがる」は縦径が77.4mmで平年比118%、横径が86.1mmで平年比114%と平年より大きく、「ふじ」は縦径が63.2mmで平年比106%、横径が68.2mmで平年比105%と平年よりやや大きい状況です。また、生育日数による比較でも、「つがる」、「ふじ」ともに平年より大きい状況です。

【花 き】

1 キク類

8月咲きでは、7月下旬からの日照、温度の回復により開花が進みほぼ平年並の開花となっています。一部の地域では7月の低日照多湿により徒長気味の生育となっており、ボリューム不足となっています。9月咲きでは草丈は平年並～やや長めとなっています。

病害虫では、中山間部で白さび病が一部の品種で多発しています。オオタバコガの発生が散見されます。

2 リンドウ

8月盆向けの早生品種では、7月下旬からの日照、温度の回復により、開花は平年並～やや遅れとなっており、早生品種は概ね需要期での出荷となっています。9月彼岸向けの中生品種については概ね順調に生育しています。

病害虫は、アザミウマ類、リンドウホソハマキ、褐斑病、黒斑病の発生がみられます。

【飼料作物】

1 牧草

牧草は、平坦部では7月下旬から、山間部では8月上旬から2番草の収穫作業が行われており、品質は平年並となる見込みです。

2 飼料用トウモロコシ

飼料用トウモロコシは、収穫期、収量ともに平年並が予想されます。早生種では8月中旬に収穫期を迎える見込みです。

◎ 病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>）等を活用し、適切に対応しましょう。

☆ 農作業事故を防止しましょう！

暑い日が続きますので、体調管理に十分留意し熱中症対策をしっかり行い、農業機械の操作にも注意しましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL(024)521-7339

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#seiikujyouhou>